

岩手県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 英語教育の状況を踏まえた目標

1 「CAN-DO リスト」の形式による学習到達目標について																										
	高等学校	中学校																								
目標	<p>(1) 「設定」について 新学習指導要領では目標を「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り][発表]」「書くこと」の5つの領域ごとに示している。このことから、各校のCAN-DO リストの設定も対応した上で、提出させる。</p> <p>(2) 「公表」について 「生徒に共有」は全校実施している。保護者及び地域に共有する学校の割合を増やし、「社会に開かれた教育課程の実現」を推進する。</p> <p>(3) 「達成状況の把握」について CAN-DO リストを活用した各授業における目標達成状況把握のための「振り返り」の更なる効果的な取組を推進する。</p>	<p>(1) 「設定」について 自校の各種調査結果の分析をもとに課題を明らかにし、その課題解決に向けた授業改善の取組と検証可能な目標設定を通してPDCAサイクル化を図るための「授業改善方策シート」（以降「授業改善方策シート」と記載）の作成により、引き続き全校の設定を目指す。</p> <p>(2) 「公表」について 生徒との共有に留まらず、保護者及び地域に公表することの意義を周知しつつ、公表する学校の割合の増加を目指す。</p> <p>(3) 「達成状況の把握」について CAN-DO リストの達成状況を把握することをとおして、指導と評価の一体化を一層推進する。</p>																								
数値指標	<p>(英語教育実施状況調査 ※2020年度岩手県独自調査中)</p> <p>(1) 「設定」について</p> <table border="1"> <tr> <td>2019年度達成値</td> <td>2021年度目標値</td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p>(2) 「公表」について</p> <table border="1"> <tr> <td>2019年度達成値</td> <td>2021年度目標値</td> </tr> <tr> <td>52%</td> <td>70%</td> </tr> </table> <p>(3) 「達成状況の把握」について</p> <table border="1"> <tr> <td>2019年度達成値</td> <td>2021年度目標値</td> </tr> <tr> <td>85%</td> <td>100%</td> </tr> </table>	2019年度達成値	2021年度目標値	100%	100%	2019年度達成値	2021年度目標値	52%	70%	2019年度達成値	2021年度目標値	85%	100%	<p>(英語教育実施状況調査)</p> <p>(1) 「設定」について</p> <table border="1"> <tr> <td>2019年度達成値</td> <td>2021年度目標値</td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p>(2) 「公表」について</p> <table border="1"> <tr> <td>2019年度達成値</td> <td>2021年度目標値</td> </tr> <tr> <td>44%</td> <td>60%</td> </tr> </table> <p>(3) 「達成状況の把握」について</p> <table border="1"> <tr> <td>2019年度達成値</td> <td>2021年度目標値</td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td>98%</td> </tr> </table>	2019年度達成値	2021年度目標値	100%	100%	2019年度達成値	2021年度目標値	44%	60%	2019年度達成値	2021年度目標値	100%	98%
2019年度達成値	2021年度目標値																									
100%	100%																									
2019年度達成値	2021年度目標値																									
52%	70%																									
2019年度達成値	2021年度目標値																									
85%	100%																									
2019年度達成値	2021年度目標値																									
100%	100%																									
2019年度達成値	2021年度目標値																									
44%	60%																									
2019年度達成値	2021年度目標値																									
100%	98%																									
現状・課題	<p>(1) 「設定」について 2013年度からの達成値は100%である。</p> <p>(2) 「公表」について 全体の52%と低い達成値である。「達成状況の把握」について 前年度の「CAN-DO リスト」に達成状況をA～Cで記入した上、新年度に県教委へ提出している。</p>	<p>(1) 「設定」について 2019年度から達成値は100%である。</p> <p>(2) 「公表」について 全体の44%と低い達成値である。</p> <p>(3) 「達成状況の把握」について 2019年度から達成値は100%である。</p>																								

要因	「イ 公表」について 保護者及び地域に公表することの意義・目的等の周知が徹底されていない。	「イ 公表」について 保護者及び地域に公表することの意義・目的の周知が徹底されていない。
手立て	「イ 公表」について 2019 年度より、各学校の公表方法の報告を義務付けることで、公表の意義をさらに周知している。報告を継続の上、学校訪問及び研修会等で一層周知していく。	「イ 公表」について 学校訪問及び研修会等で公表の意義を一層周知する。特に新学習指導要領の全面実施に伴い、指導と評価の一体化を一層推進するうえでの公表の重要性について周知する。

2 授業における生徒の英語による言語活動時間の占める割合について

	高等学校	中学校								
目標	<p>(1) 言語活動の定義理解を徹底した上で、統合的な言語活動を中心とした「生徒が英語を好きになる授業づくり」を更に推進し、英語による言語活動を生徒と一緒にすることが喜びであるという教員を育成する。</p> <p>(2) 「英語の授業作り 自己チェック5つのポイント（県教委作成）」及び「いわての授業づくり3つの視点」（県教委作成）等を授業者と確認しながら、より一層の授業改善をしていく。</p>	<p>(1) 外国語教育における言語活動の定義及び指導の在り方、特に小学校の学びの生かし方について、学習指導要領に基づき周知・徹底を図る。</p> <p>(2) 訪問指導や研修会等で「いわての授業づくり3つの視点」（県教委作成）を用い、言語活動を中心とした授業の在り方について周知を図る。</p>								
数値指標	<p>(英語教育実施状況調査 ※2020年度岩手県独自調査中)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>2019年度達成値</th> <th>2021年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	2019年度達成値	2021年度目標値	75%	100%	<p>(英語教育実施状況調査)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>2019年度達成値</th> <th>2021年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>86%</td> <td>95%</td> </tr> </tbody> </table>	2019年度達成値	2021年度目標値	86%	95%
2019年度達成値	2021年度目標値									
75%	100%									
2019年度達成値	2021年度目標値									
86%	95%									
現状・課題	<p>2018年度から2019年度にかけて、72%から75%に増加したものの、目標値の80%を達成できなかった。</p> <p>言語活動の定義はある程度周知してきた。しかし、言語活動の定義理解の周知徹底及び統合的な言語活動を中心とした授業改善が課題である。</p>	<p>各種研修会において、生徒の英語による言語活動を中心とする授業改善を推進するよう働きかけてきたことにより徐々に成果が現れ、2018年度82%、2019年度86%と増加傾向であるが、100%には至っていない。</p>								

要因	<p>(1) 「話すこと」の言語活動だけを言語活動と捉えている等の誤解が見られ、教員の言語活動の定義理解に差がある。</p> <p>(2) 進学を希望する生徒が多い学校及び英語が苦手な生徒が多い学校等の授業において、言語活動の占める割合が低い。</p>	<p>(1) 教員によって言語活動の定義の理解に差がある。また、小学校で行われている言語活動についての理解が進んでいない。</p> <p>(2) 言語活動とそれ以外の活動のバランスが取れていない授業が散見される。</p>
手立て	<p>(1) 高等学校学習指導要領に規定されている言語活動の定義を、学校訪問及び研修会等において具体例の提示をとおして、一層周知していく。</p> <p>(2) 各種研修会及び学校訪問等において、課題のある学校や教員の授業改善に取り組むとともに、授業のビデオ撮影等を行い、4技能を結び付けた統合的な言語活動を重視した授業の具体的実践事例を蓄積及び普及する。</p>	<p>(1) 研修会、訪問指導において言語活動の定義、小中高での学びの接続を踏まえた指導の在り方について一層周知する。</p> <p>(2) 理論研修に加え、授業改善方策シートを用いた実践例を紹介するなど、授業者が授業における言語活動を具体的なイメージとして持てるような研修を企画、運営する。</p>

3 パフォーマンステストについて

	高等学校	中学校																		
目標	<p>(1) 各定期考査の時期を中心に、できる限り実施したい。4回ある定期考査時の実施は最低目標値とし、実施の周知を図っていく。</p> <p>(2) 妥当性・信頼性等をさらに追及し、パフォーマンステストの質の向上を図る。</p>	<p>(1) パフォーマンステストを含めた、指導と評価の一体化の意義を周知する。</p> <p>(2) 授業改善方策シートにより、各校のパフォーマンス評価を含めた年間評価計画作成の支援を行う。</p>																		
数値指標	<p>(英語教育実施状況調査 ※2020年度岩手県独自調査中)</p> <table border="1" data-bbox="379 1760 874 2011"> <thead> <tr> <th></th> <th>2019年度 達成値</th> <th>2021年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スピーキング テスト</td> <td>4回</td> <td>7回</td> </tr> <tr> <td>ライティング テスト</td> <td>4回</td> <td>6回</td> </tr> </tbody> </table>		2019年度 達成値	2021年度 目標値	スピーキング テスト	4回	7回	ライティング テスト	4回	6回	<p>(英語教育実施状況調査)</p> <table border="1" data-bbox="909 1760 1422 2011"> <thead> <tr> <th></th> <th>2019年度 達成値</th> <th>2021年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スピーキング テスト</td> <td>4回</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>ライティング テスト</td> <td>3回</td> <td>4回</td> </tr> </tbody> </table>		2019年度 達成値	2021年度 目標値	スピーキング テスト	4回	4回	ライティング テスト	3回	4回
	2019年度 達成値	2021年度 目標値																		
スピーキング テスト	4回	7回																		
ライティング テスト	4回	6回																		
	2019年度 達成値	2021年度 目標値																		
スピーキング テスト	4回	4回																		
ライティング テスト	3回	4回																		

<p>現状・課題</p>	<p>スピーキングテスト及びライティングテストの両方を実施している割合は77%である。100%ではないのが課題である。</p> <p>また、ライティングテストは目標値（4回）を達成したが、スピーキングテストは目標値（5回）を達成できなかった。</p>	<p>研修会における実践交流やCAN-DOに対応したパフォーマンステストの実施計画の作成等の取組を進めてきたことにより、すべての学校でパフォーマンステストの実施が定着している。しかし、スピーキングテストと比較して、ライティングテストの実施が少ない状況である。</p>
<p>要因</p>	<p>(1) パフォーマンステストの目的・効果等の周知が徹底されていない。</p> <p>(2) CAN-DOリストの形式による学習到達目標を活用したルーブリック(評価基準)の設定方法及び評価方法等の共通理解が十分ではない。</p>	<p>(1) 指導と評価の一体化が図られていない。</p> <p>(2) 評価から逆算した指導計画が不十分である。</p>
<p>手立て</p>	<p>(1) 各学校は年度始めにパフォーマンステスト実施計画及び定期考査問題を提出し、県教委がパフォーマンステストの実施及び出題内容等を把握する。</p> <p>(2) 指定校による、学習到達目標を活用したルーブリックの設定方法及び評価方法等の研究を行い、具体的実践例の蓄積及び普及する。</p>	<p>(1) 研修会、訪問指導において評価の考え方について周知する。</p> <p>(2) 授業改善方策シート、学習指導案例を活用し、各校の評価計画作成を支援する。</p>

4 授業における英語教員の英語使用状況について

	高等学校	中学校
<p>目標</p>	<p>(1) 授業における教師の英語使用目的理解を徹底した上で、生徒に思考力・判断力・表現力等を身に付けさせるために、生徒と一緒に英語を使うことが喜びであるという教員を育成する。</p> <p>(2) 「英語の授業作り 自己チェック5つのポイント」(県教委作成)及び「いわての授業づくり3つの視点」(県教委作成)等を授業者と確認しながら、より一層の授業改善をしていく。</p>	<p>学習指導要領に基づき、「授業は英語で行うことを基本とする」の趣旨及び意義を周知する。</p>

数値指標	(英語教育実施状況調査 ※2020年度岩手県独自調査中)	(英語教育実施状況調査)							
	<table border="1"> <tr> <td>2019年度達成値</td> <td>2021年度目標値</td> </tr> <tr> <td>72%</td> <td>100%</td> </tr> </table>	2019年度達成値	2021年度目標値	72%	100%	<table border="1"> <tr> <td>2019年度達成値</td> <td>2021年度目標値</td> </tr> <tr> <td>77%</td> <td>90%</td> </tr> </table>	2019年度達成値	2021年度目標値	77%
2019年度達成値	2021年度目標値								
72%	100%								
2019年度達成値	2021年度目標値								
77%	90%								
現状・課題	<p>目標値の80%に達成できず、72%であった。県教委として「授業は英語で行うことを基本とする」ことの趣旨及び意義を周知してきた。</p> <p>しかし、授業をコミュニケーションの場となるようにすることで「授業における、生徒の英語による言語活動の割合」を一層増加させる授業改善が課題である。</p>	<p>「発話を概ね英語で行っている」教員の割合も「発話の半分以上を英語で行っている」教員の割合は2018年度71%、2019年度77%と増加傾向にはあるが、「授業は英語で行うことを基本とする」ためには、更なる改善が必要である。</p>							
要因	<p>(1) 「授業は英語で授業を行うことを基本とする」ことの趣旨及び意義の周知が徹底されていない。</p> <p>(2) 進学を希望する生徒が多い学校及び英語が苦手な生徒が多い学校等の授業において、英語使用割合が低い。</p>	<p>教師の英語使用が「実際のコミュニケーションの場面」として位置づいていない。</p>							
手立て	<p>(1) 高等学校学習指導要領に明記されている「授業は英語で行うことを基本とする」の趣旨及び意義を、学校訪問及び研修会等で一層周知していく。</p> <p>(2) 各種研修会及び学校訪問等において、課題のある学校や教員の授業改善に取り組むとともに、授業のビデオ撮影等を行い、4技能を結び付けた統合的な言語活動を重視した授業の具体的実践事例を蓄積及び普及する。</p>	<p>今後も教育課程協議会や研修会等を通じ、全ての英語科教員にその方針と利点について理解が得られるよう、引き続き指導していく。</p>							

5 求められる英語力を有する教師の割合について

	高等学校	中学校
目標	<p>言語活動の高度化が求められる中で、教員の英語力向上は必要な条件であるという意識を高めていく。</p>	<p>教師の英語力を授業力の一部であるという視点を持ち、訪問指導で指導する。</p>

数値指標	(英語教育実施状況調査 ※2020年度岩手県独自調査中)	(英語教育実施状況調査)							
	<table border="1"> <tr> <td>2019年度達成値</td> <td>2021年度目標値</td> </tr> <tr> <td>69%</td> <td>89%</td> </tr> </table>	2019年度達成値	2021年度目標値	69%	89%	<table border="1"> <tr> <td>2019年度達成値</td> <td>2021年度目標値</td> </tr> <tr> <td>20.2%</td> <td>24%</td> </tr> </table>	2019年度達成値	2021年度目標値	20.2%
2019年度達成値	2021年度目標値								
69%	89%								
2019年度達成値	2021年度目標値								
20.2%	24%								
現状・課題	2019年度は目標値の60%を上回り、69%であった。言語活動の高度化が求められる中で、教員の英語力向上は必要な条件であるという意識を高めることが課題である。	本県が設定した2019年度の目標(20.0%)は超えたが、未だ国が求める目標値50%には届いていない状況である。							
要因	<p>(1) 教員の英語力向上が授業改善及び生徒の英語力繋がる等について、教員の理解に差がある。</p> <p>(2) 部活動指導等、教科以外の指導にも熱心な教員が多く、外部試験の受験機会を確保することが困難である。</p>	教師の英語力と授業改善が関連付けられていない。							
手立て	<p>(1) 教員の英語力と授業改善及び生徒の英語力等に関連付けた具体的実践事例を蓄積及び普及する。</p> <p>(2) 「令和元年度及び令和3年度英語教育改善プラン推進事業」に係る研修会参加者の外部試験受験については、受験料を補助する。教員の受験機会を保障するために、英検、TOEFL、TOEICの受験を可能にする。</p>	<p>(1) 教師の英語力と授業改善が関連付けられた実践を紹介する場を設定する。</p> <p>(2) 英語力向上に係る研修、外部検定試験の受験補助を行い、意欲の向上を図る。</p> <p>(3) 年齢層、経験年数等、ターゲットを絞った戦略的な働き掛けを行う。</p>							

6 求められる英語力を有する生徒の割合について

	高等学校	中学校							
目標	4技能・5領域を結び付けた統合的な言語活動を中心とした授業の浸透を一層推進することで、生徒の英語力を更に向上させる。	授業改善方策シートにより、自校の実態を把握したうえで、4技能・5領域を結び付けた統合的な言語活動を中心とした授業の浸透を一層推進することで、生徒の英語力を更に向上させる。							
数値指標	(英語教育実施状況調査 ※2020年度岩手県独自調査中)	(英語教育実施状況調査)							
	<table border="1"> <tr> <td>2019年度達成値</td> <td>2021年度目標値</td> </tr> <tr> <td>43%</td> <td>47%</td> </tr> </table>	2019年度達成値	2021年度目標値	43%	47%	<table border="1"> <tr> <td>2019年度達成値</td> <td>2021年度目標値</td> </tr> <tr> <td>39.3%</td> <td>46%</td> </tr> </table>	2019年度達成値	2021年度目標値	39.3%
2019年度達成値	2021年度目標値								
43%	47%								
2019年度達成値	2021年度目標値								
39.3%	46%								

現状・課題	<p>2019 は目標値の 42%を上回り、43%であった。学校訪問及び研修会等で4技能・5領域を結び付けた統合的な言語活動を重視した授業改善に取り組んできた。</p> <p>しかし、教員の授業改善が生徒の英語力向上に十分活かされていないのが課題である。</p>	<p>2018 年度 37.1%、2019 年度 36.9%と改善傾向を示してきており、2019 年度は本県が設定した目標（39%）を超える 39.3%であった。</p> <p>実際に英検 3 級以上を取得している生徒数も 2018 年度 23.7%、2019 年度 23.7%と上昇傾向ではあるが、全国に比べ低い状況である。</p>
要因	<p>4技能・5領域を結び付けた統合的な言語活動を重視した授業改善を通して、生徒の英語力を向上させることの意識涵養が十分ではない。</p>	<p>年度初めの生徒の実態把握が学校、学年などの集団止まりであり、生徒個人の英語力の把握に至っていない。</p>
手立て	<p>(1) 外部検定試験の対策や問題演習を強化するのではなく、4技能・5領域を結び付けた統合的な言語活動を中心とした授業の浸透を学校訪問及び研修会等で一層推進する。</p> <p>(2) 県内の公立高校 2 年生全員に、英検 IBA 受験料を県で全額補助する。</p>	<p>(1) 授業改善方策シートを活用した、生徒個々の英語力の把握を推進する。</p> <p>(2) 各校における調査結果等を活用した P D C A サイクル構築による授業改善を推進する。</p>

7 新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合

小学校					
目標	授業における英語使用を増やすことにより、教員の英語力向上を目指す。				
数値指標	<table border="1" data-bbox="383 1332 869 1422"> <tr> <td data-bbox="383 1332 646 1377">2020 達成値</td> <td data-bbox="646 1332 869 1377">2021 目標値</td> </tr> <tr> <td data-bbox="383 1377 646 1422">18%</td> <td data-bbox="646 1377 869 1422">26%</td> </tr> </table>	2020 達成値	2021 目標値	18%	26%
2020 達成値	2021 目標値				
18%	26%				
現状・課題	2020 年度の目標値 20%はわずかに達成できなかった。				
要因	一定の英語力を満たす人材が育成されていない。				
手立て	採用条件として、英語資格所有者への加点を継続するとともに、一定の英語力を有する人材育成の在り方について、検討委員（岩手大学教授及び盛岡大学教授）からの助言を研修会に生かす。				

(2) (1) の目標を達成するための取組 (施策の全体像と具体的な計画)

1 本県における英語力向上に係る研修体系について

【英語教育の状況を踏まえた目標管理項目】

- 1 求められる英語力を有する教師の割合について
- 2 求められる英語力を有する生徒の割合について
- 3 「CAN-DO リスト」の形式による学習到達目標について
- 4 授業における生徒の英語による言語活動時間の占める割合について
- 5 パフォーマンステストについて

(1) 本県における、上記項目における課題解決に向けた研修

研修名 (国：本事業 県：県事業 教：各教育事務所事業)	対象			英語教育 推進 リーダー 活用	目的 (上記項目番号)				
	小学校	中学校	高校		1	2	3	4	5
小中高域内研修会 (国)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小中高英語教育推進リーダー研修会 (国)	○	○	○	○		○	○		
中高英語教員育成講座 (国)		○	○	○		○		○	
授業実践セミナー (県)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
英語を使って未来を拓く学校プラン (県)	○	○	○		○	○	○	○	○
英語ディベート研修会 (県)		○	○	○		○		○	
小中高をつなぐ中学校英語授業づくり研修講座 (県)	○	○			○	○	○	○	○
新学習指導要領に対応した小学校外国語研修講座 (県)	○							○	
小中をつなぐ外国語教育推進研修会 (教)	○	○			○			○	
授業カブラッシュアッププラン事業 (教)	○	○	○		○	○	○	○	○

(2) その他の事業

事業名 (国：本事業 県：県事業 教：各教育事務所事業)	対象			英語教育 推進 リーダー 活用	目的 (上記項目番号)				
	小学校	中学校	高校		1	2	3	4	5
高校学校訪問事業 (国・県)			○	○	○	○	○	○	○
中学校学校訪問事業 (県・教)		○			○	○	○	○	○
イーハトーブキャンプ (県)	○	○	○		○				
海外派遣研修 (県)			○		○				

2 本事業における研修の内容について

(1) 小中高域内研修会 (国事業)

ア 研修目的

外国語科の目標について域内の小中高の英語担当教員が共有し、生徒の英語によるコミュニケーション能力を確実に向上させ、グローバル人材の育成を担う教員の指導力向上を目指すもの。

イ 研修対象者

- (ア) 研修協力校の英語担当教員
- (イ) 県内小学校、中学校、高等学校の英語担当教員
- (ウ) 市町村教育委員会の指導主事等 (希望者)

ウ 受講予定者数

各研修協力校1回の研修会で延べ40名程度

エ 研修内容

英語教育推進リーダー及び参加者による学習指導案等検討、指導主事による事前訪問指導、研究授業、研究協議、外部専門機関による授業改善ワークショップ

オ 講師

大阪樟蔭女子大学 児童教育学部 教授 菅 正隆 氏

カ 研修会の回数

4回 (小学校1回、中学校1回、高校2回)

キ 研修の成果普及

研修会における授業や講義・演習における成果と思われる事項について、指導主事はその内容をまとめ、英語科通信等を通して、公立学校すべての英語科教員にメールで配信する。
各研修会、学校訪問等の際に、成果と思われる事項について、情報共有する。

*参考 研修協力校指定一覧

平成24年度	花巻南高校	(中部地区)	・一関第一高校 (県南地区)	拠点校事業として実施済
平成25年度	不来方高校	(盛岡地区)	・黒沢尻北高校 (中部地区)	拠点校事業として実施済
平成26年度	福岡高校	(県北地区)	・種市高校 (県北地区)	外部連携事業として実施済
平成27年度	盛岡北高校	(盛岡地区)	・一関第二高校 (県南地区)	外部連携事業として実施済
平成28年度	盛岡第二高校	(盛岡地区)	・大東高校 (県南地区)	外部連携事業として実施済
平成29年度	盛岡市立高校	(盛岡地区)	・岩谷堂高校 (県南地区)	外部連携事業として実施済
平成30年度	花巻北高校	(中部地区)	・宮古高校 (宮古地区)	外部連携事業として実施済
令和元年度	盛岡市立仙北小学校・陸前高田市立高田東中学校・盛岡第四高校 (盛岡地区)		・遠野高校 (中部地区)	英語教育改善プラン事業として実施済

*英語教育推進校（県独自の指定校）

令和2年度 北上市立黒沢尻北小学校・久慈市立長内中学校・花巻南高等学校（中部地区）・
久慈高等学校（県北地区）

（2）小中高英語教育推進リーダー研修会（国事業）

ア 研修目的

新学習指導要領の下で、本県の外国語教育を推進していくリーダー教員を**英語教育推進リーダー中央研修受講者等**を中心に育成するとともに、その教員が行う取組を通して、県全体の外国語教育の充実を目指すもの。

イ 研修対象者及び受講予定者

平成26～30年度英語教育推進リーダー中央研修受講者20名
（小学校10名、中学校4名、高校6名）
平成23～27年度県教委指定中高中核教員54名
（中学校29名、高校25名）

ウ 研修内容

外部専門機関による授業改善ワークショップ、小中高の接続を考えた外国語教育の在り方等
についての協議・発表

エ 講師

敬愛大学 国際学部 教授 向後 秀明 氏

オ 研修会の回数

3回（小学校・中学校合同及び高校各1回、小学校・中学校・高校合同1回）

カ 研修の成果普及

研修会における授業や講義・演習における成果と思われる事項について、指導主事その内容をまとめ、英語科通信等を通して、公立学校すべての英語科教員にメールで配信する。
各研修会、学校訪問等の際に、成果及び課題等について普及する。

（3）中高英語教員育成講座（国事業）

ア 研修目的

新学習指導要領の下で、本県の外国語教育の推進のために中核になり得る教員を、**新たに県教委により指定して育成**を目指すもの。

イ 研修対象者及び受講予定者

県教委指定教員28名
（中学校18名、高校10名）

ウ 研修内容

外部専門機関による授業改善ワークショップ、「授業づくりの視点」等協議、指導主事による訪問指導

エ 講師

文教大学 国際学部 教授 阿野 幸一 氏

オ 研修会の回数

2回（中学校1回、高校1回）

カ 研修の成果普及

研修会における授業や講義・演習における成果と思われる事項について、指導主事その内容をまとめ、英語科通信等を通して、公立学校すべての英語科教員にメールで配信する。
各研修会、学校訪問等の際に、成果及び課題等について普及する。

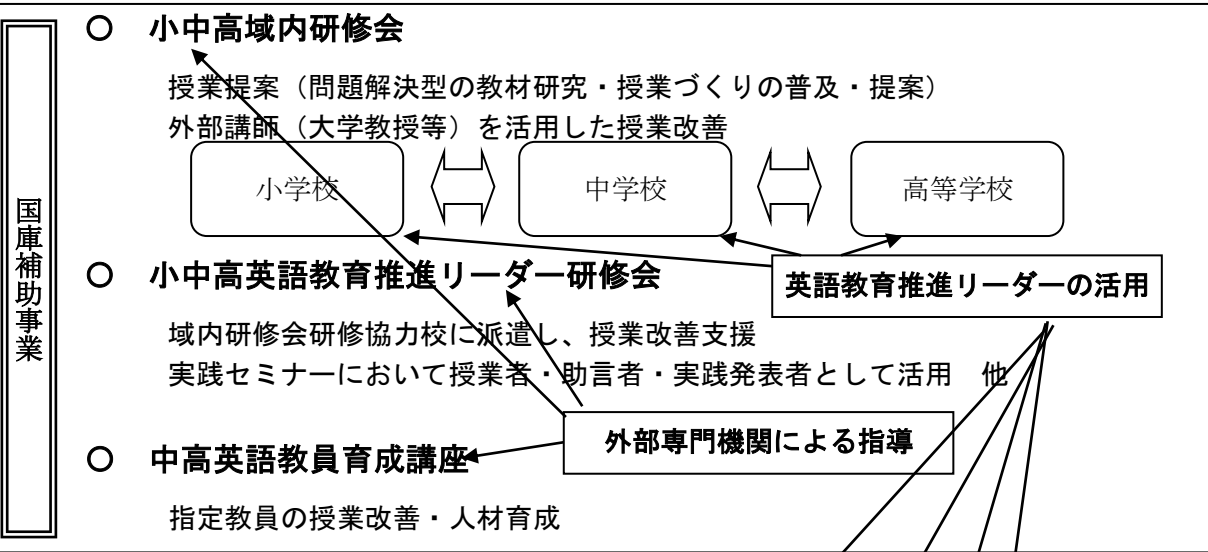
3 本事業を活用した英語担当教員の外部検定試験受験料補助について

「英語教育改善プラン推進事業」を活用し、英語教育実施状況調査から本県の課題となっている英語担当教員におけるCEFR B2以上等の資格取得率の向上につなげるものである。本事業を活用し本県で実施する、令和元年度及び2年度実施の研修会に参加した小、中、高校教員のうち、研修成果の確認として英検、TOEFL、TOEICの受験を希望する教員に対し受験料を補助する。

(3) (2) を実施する体制の概要

岩手県教育委員会
「英語教育改善プラン」の策定・研修等の企画

生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業



<児童生徒の英語力>

- 中 高 英検 IBA 受験（中学2年生及び高校2年生の状況把握）
- 小 中 高 イングリッシュ・キャンプ（英検3級、準2級程度の英語力育成・人材育成）
- 高 海外派遣研修（英語力育成・人材育成）

<教師の指導力>

- 小 中 高 英語ディベート研修会大会（思考力等を育成するための授業改善）
- 小 中 高 授業実践セミナー（推進リーダー等を活用した授業改善）
- 小 中 高 外部試験受験料補助（外部試験受験を通じた教員の英語力向上）
- 中 高 学校訪問事業（教師の授業力向上）
- 中 高 英語を使って未来を拓く学校プラン（指定校のPDCAサイクル強化）
- 中 高 雲南省教育交流推進事業（英語力育成・指導力育成・人材育成）

県教委

連携

教員事務所

教育センター

- 小 中 小中をつなぐ外国語教育推進研修会（小中連携の強化・授業改善）
- 小 中 「授業力ブラッシュアッププラン事業」授業改善研修会
- 小 中 高 小中高をつなぐ中学校英語授業づくり研修講座（授業改善）
- 小 中 高 新学習指導要領に対応した小学校外国語研修講座（授業改善）
- 高 思考力・判断力・表現力等を高める指導力向上研修講座

成果の普及

県内の小学校・中学校・義務教育学校・高等学校

